

延岡合宿スタート

大相撲東関部屋 相撲部

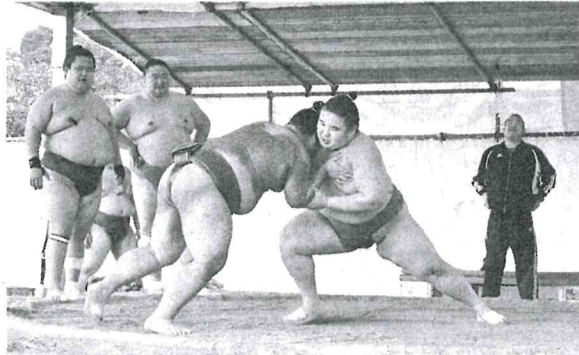
土俵開きに多くのファン

ちやんこ振る舞いに笑顔

10日まで西階 特設会場



土俵開きの神事で玉串をささげる振分親方
(1日、西階運動公園特設会場)



初日から激しい稽古に打ち込む力士たち



長い行列ができた、ちやんこ鍋の振る舞い



熱々のちやんこを味わう見学者の皆さん

大相撲東関部屋(東関大五郎親方)の11回目となる延岡合宿が1日、同市西階運動公園特設会場で始まった。力士ら12人が参加して10日まで稽古に汗を流すほか、市内の施設訪問や市民交流パーティーなどで延岡の相撲ファンと交流する。

合宿は実行委員会(本雄介委員長)が主催して12月の風物詩としてすっかり定着。今年も幕開きの初日は、力士も部屋の関係者、延岡市、延岡観光協会、各団体の代表が出席して早朝から土俵開きが行われた。

春日神社の桑幡尚明権禰宜(こんねぎ)が神事を執り行い、合宿中の無事故と力士たちの土俵での活躍、地域の繁栄などを祈願。出席者が玉串をささげてかしわ手を打った。

和己議長が来賓祝辞を述べ、部屋の隆盛に期待を寄せた。主催者の榎本委員長が11回の合宿を続けてこられた協力を感謝してあいさつ。さらに病氣療養中の東関親方に代わって合宿の指揮を執る振分精彦親方(元小結高

見盛)があいさつした。振分親方は「今年もお招きいただき、ありがとうございます。今年も稽古や慰問、イベントなどを通して、皆さんとの縁がさらに深まることを祈って稽古に励みたい。よろしくお願います」

と力強く述べた。神事を終えると、市内外の企業・団体から米や肉などの食材、お菓子など数多くの差し入れが贈呈された。

式典の後、力士たちは早速土俵に上がって稽古。四股やすり足をじっくり行って体を温め、申し合い、ぶつかり稽古に汗を流した。

高々と脚を上げる四股や、鍛え上げた肉体同士がぶつかり合う激しい音が会場に響いた。土俵前に設けられた客席では、訪れた人たちが相撲の醍醐味(だいごみ)を満喫。パンフレットを見ながら力士の名前を確認したり、写真を撮ったりする姿も見られた。

最終日の10日は午後7時からエンティホテル延岡で恒例の市民交流パーティーがある。会費は高校生以上5000円、小中学生1000円、3歳以上未就学児は500円。問い合わせは実行委員会事務局の大貫診療所(富延岡33・1855)。

相撲でまちを元気に
主催者の榎本委員長(あいさつ)

「私は「相撲でまちを元気にする」という夢があります。折しも、地元出身の琴恵光さんが非常に盛り上げています。相撲というものは一人の力士の活躍でまち全体を元気にすることができる素晴らしいことだと思っています。」

「東関部屋の力士も、それぞれのふるさとの思いを背負っています。自分の活躍でまちを元気にすることができると思っています。この合宿を初場所での活躍と番付を上げるきっかけにしたいです。」

は稽古休み。朝稽古の時間は午前8〜11時ころで見学は無料。7日は稽古後に餅の配布(限定300人)とちやんこ鍋販売。8日は体験入門とちやんこ鍋販売がある。また期間中、力士たちは市内の32施設を訪問する。

最終日の10日は市民交流パーティー(富延岡33・1855)で、初日から歓迎ムードにあふれていた。

合宿は10日まで(5日)